



学校だより

笑顔 本小つ子II

3月号⑦
2025.3.21(金)

文責 本宮小校長 佐久間仁

卒業証書授与式



本日、卒業証書授与式を行いました。卒業生六十三名に卒業証書を手渡しました。卒業生へのはなむけに次のような話をしました。

「ただ今、卒業証書を手にされた六十三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。小学校生活最後となる今年度、皆さんは常に本宮小学校を引っ張るリーダーとしての自覚をもち、学習や運動に精一杯取り組みました。

特に思い出深いのは、運動会や学習発表会です。伝統ある応援歌を高らかに歌ったエールの交換。楽しそあふれるチャンス走。白熱した戦いを繰り広げた棒引きや紅白リレー。赤も白も全力を尽くし、互いの健闘をたたえ合う姿はたくましく、まぶしかったです。学習発表会ではメディア問題をテーマ

した。行事を成功させようと率先して準備や片付けをする姿に、六年生としてのプライドと責任感を感じました。

晴天の下、本宮市内を堂々と行進した鼓笛パレード。市内七校の六年生と力と技を競い合い、交流を深めた南達陸上大会。会津の歴史や文化、自然を満喫した修学旅行。そして、何よりも大切な友達との日常の何気ない会話や休み時間の遊びなど。どれもかけがえのない宝物ですね。

ところで、昨年十一月に九十二歳で亡くなられた詩人 谷川俊太郎さんは、次のような詩を書き記しました。

「そのあと」

そのあとがある
大切なひとを失つたあと
もうあとはないと思ったあと
すべて終わつたと知つたあとにも
終わらないあとがある



に提案書を発表しました。脚本から演出まで自分たちで創り上げたまさに本小オリジナルの創作劇でした。行事を成功させようと率先して準備や片付けをする姿に、六年生としてのプライドと責任感を感じました。

そのあとがある
世界に そして
ひとりひとりの心に
霧のように何も見えない中には
いつも、一筋の光を求めて進んで
いけば、きっとその先に青い空が
待っている。この詩は、どんなに
辛いこと、苦しいことがあっても、
希望を見失わず、前を向いて一步
ずつ進んでいけば、きっと明るい
未来が訪れる、そんなことを教え
てくれているような気がします。

今年度、本宮小学校では、「夢と希望をはぐくむ学校～命・感謝・挑戦～」を合言葉に「命を大切にし、自分を支えて下さる方への感謝の気持ちをもって、何事もあきらめずに最後まで挑戦する」とことを一人一人が心がけて生活していました。

朝のあいさつ運動や校舎内の清掃など、六年生が率先して進めてきた活動が、今では本宮小学校のよき伝統になりつつあります。創立百五十年目を迎えた本宮小学校の長い歴史に、価値ある一ページを刻んだ皆さんの頑張りに心から拍手を送ります。

皆さんには自分を支えてください。

【御礼】一年間、学校だよりをお読みいただき、ありがとうございました。皆様のご協力に感謝いたします。

明日から春休み



して卒業を迎えることができた喜びをかみしめてほしいと思います。
そして小学校で経験したことを糧として、今度は自分が誰かを支える存在になつてほしいと思います。

〔今後のおもな予定〕

二十六日 教室移動（五年登校日）

二十八日 離任式（全校登校日）

四月一日 クラス発表（新一年・新三年・新五年）

四月七日 着任式 始業式 入学式
〔緊急時の連絡先〕

◇学校 三三一一〇四四

※学校が無人のときは「マチコミ

メール（お休み連絡）」を使用してください。